

向にあるとも言われ始め、それが進めば、企業収益を押し下げ、賃金や雇用にまで悪影響をおよぼすことが懸念されるところであり、一刻も早く景気が回復し、豊かで活力ある経済社会の実現が望まれます。

新たな年を迎えるにあたり、地元選出の国会議員の方にふるさと舞鶴や日本の将来について熱い思いを寄稿していただきました。

新春のごあいさつ

衆議院議員 小原 舞



新年明けましておめでとうございます。舞鶴商工会議所 上西勝己会頭はじめ会員の皆様に平素よりお世話になっておりますことを改めて御礼申し上げます。昨年の8月30日の衆議院議員総選挙におきましては、地元舞鶴の皆様から多大なるご期待をいただき、国政の場で「地域の再生」という志に政治家として取り組めることになりました。

臨時国会中は特に国会と地元を往復する日々が続きました。この一年の抱負は、今まで届きにくかった地方の声を国政にしっかりと届けていくことです。衆議院議員となって早4ヶ月が経ちますが、国会における政策提言は総務や環境、経済政策等の政策会議や質問研究会の場にて積極的に発言することによって行っています。その際、国会会期中における地元での活動が何よりの勉強になります。地元でより具体的なお声をいただくことによって、血の通った、机の上で考えられたものではない提言ができるからです。常任委員会は総務委員会に所属し地域主権改革に真っ向から取り組めることになりました。皆様からの現場のお声をいただく活動に専念し汗をかって国会へ届け、ひいては分権改革によって地方の自由度を高めていきたいと思っています。

生まれ育った舞鶴への想いが私の政治の原点です。私は大学卒業後、地元に戻って舞鶴TMOにお誘い頂きましてはじめて「まちづくり」活動に携わりました。舞鶴の素晴らしさを皆様から教えられ育てていただきました。ご存じの通り、地の利のある舞鶴は、古くは大陸との交流を持ち近代には海軍鎮守府が置かれた歴史を有しております。風光明媚な土地柄と戦後は引き揚げのまちとして大陸から引き上げてこられた方々を受け入れ、戦後福祉発祥の地とも言えます。その歴史において使命を果たしてきた舞鶴は今後も潜在可能性を秘めた地なのです。だからこそ、

私はこの地から地域振興のために人生をかけようと思うに至ったのであります。地方をとりまく環境は厳しく前途は多難ではありますが、「地方から日本を変える」ことが今求められているのではないのでしょうか。これからは地方の時代です。地域主権型の国のかたちに大きく舵をきると同時に、私の確信は「地方の再生なくして日本の再生はなし」と思っております。舞鶴国際ふ頭の供用開始によって北東アジアとの人的・物的交流を深化させ、自然に恵まれた地を活用して第一次産業の復興・発展、循環型社会の構築や新たな再生エネルギーへの取り組みなど地域の資源を生かして経済活動の連携を考えていきたいと思っています。

商店街・中小企業の活性化には、まずは人が戻る、人が集まる魅力づくりが求められています。厳しい財政状況の中、行政刷新会議等で無駄の削減を行う一方で、新たな成長戦略として観光への投資も行われます。皆様と共に考え汗をかって希望ある舞鶴の発展のために尽力して参る所存です。

地元の声を国政に届ける、この活動のために、地元密着した商工会議所の皆様のお力を賜り、よりよい政治ができればと思っております。

新しい年が皆様にとりまして、希望に満ち幸せな一年となりますことをご祈念申し上げまして新年のご挨拶といたします。

